

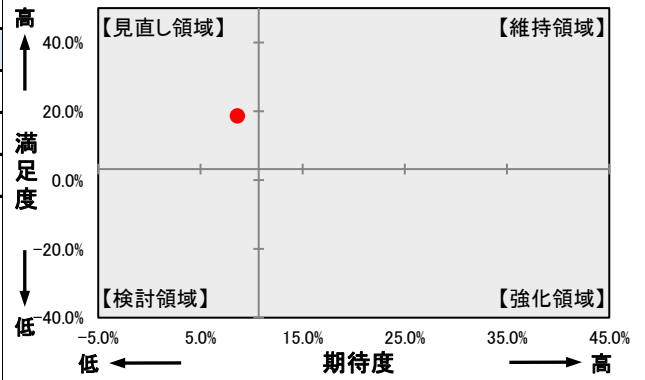
平成 30 年度 施策評価表

住民意識調査結果

施策No. 15

1. <施策の概要>

記入日	令和 元年 8 月 5 日
政 策	【Ⅱ】自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり
基本 施策	【1】豊かな自然と恵まれた環境の保全
施 策 名	①自然環境の保全・保護
施 策 の 基本方針	吉野山や津風呂湖などの水辺環境や豊かな森林環境を良好な形で守り、年間を通じて自然に親しむことが出来る環境を保全するため、環境衛生デーや河川美化事業などの活動を継続して実施します。また、河川利用者等にマナー向上のPRを行い、放置ゴミの減量化を図ります。さらに、施業放置林解消活動推進事業を推進する一方、木の駅プロジェクトの活動を支援して、森林環境の改善を行います。
評価者職氏名	奥田昌弘
主担当課	暮らし環境整備課
関係 課	産業振興課



	当該施策の値	施策中順位	平均値
満 足 度	18.7%	9/40	3.20%
期 待 度	8.6%	23/40	10.70%

2. <施策の現状分析>

施策の概況	<p>住民意識調査やニーズを踏まえた、施策の現状と課題</p> <p>吉野川や津風呂湖などの水辺環境や豊かな森林環境を保全するため地域住民や各種団体が主体となり清掃活動に取り組んでいますが、地域からは人口減少と高齢化により、地域での環境保全活動は、困難な状況になっているという声が多く聞かれます。また、森林環境の保全と森林の持つ多面的機能を維持するため、施業放置林解消推進事業や、木の駅プロジェクトの推進が必要です。さらには、菜の花プロジェクトの推進と廃食油からBDFの精製・利用し、循環型社会形成に取り組み環境保全に努める必要があります。</p>	<p>社会環境や国・県の動向など施策を取巻く状況</p> <p>水質汚濁の解消や吉野川の利活用を目指した、各種団体が構成され、流域自治体と連携しながら事業を進めています。吉野町が単独で行なう事業や、吉野川流域の市町村や県と連携を図りながら行う事業もあります。</p> <p>自然環境を保全していくためには、吉野町だけではなく近隣の市町村との連携を行いながら事業を継続していく必要があります。</p>
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. <役割分担の適切性>

No	役 割 分 担	進捗度	改善に向けた方針
1	個人でできること ・自然を大切にすることを高めて、豊かな自然環境を維持するため日常清掃を実施する。 ・森林の保全に努める。	b. やや遅れている	日常清掃については十分に対応できていますが、森林の施業については遅れています。推進事業によって解消を少しずつ進めていきます。
2	地域でできること (町内会・自治会レベル) ・環境衛生デーには、重点的に日常清掃できない所の清掃活動や吉野川河川敷についても清掃活動を実施し、環境美化に努める。 ・森林に関心をもち、環境保全に取り組む。	a. 順調である	
3	地域でできること (自治協議会レベル) ・春期及び下記について、「リバーフィールドよしの」等の河川環境美化活動や道路清掃などを実施し、環境保全に取り組む。	a. 順調である	
4	行政が担うこと ・年間を通じて臨時職員による吉野川を中心とした町内の清掃を実施し、自然環境の保全・保護を図る。 ・国、県、流域市町村と連携し、定期的に河川パトロールを実施し河川美化及び水質汚濁防止の早期発見に努める。 ・森林の保全管理を支援する。	a. 順調である	

4-1. <指標の設定>

指 標 名	単 位	年度	現状値 (H26)	後期基本計画期間					他団体比較 (ベンチマーク)	
				H27	H28	H29	H30	H31		H32
1 自然環境の保全活動数	回	目 標	5	5	5	5	5	5	5	暮らし環境整備課調べ (環境衛生デー・河川美化事業・吉野川マナーアップキャンペーン・クリーンアップならキャンペーン)
		実 績			5	5	5	-	-	
2 水浴場の水質検査の結果	-	目 標	水質 A	水質 A	水質 A	水質 A	水質 A	水質 A	水質 A	暮らし環境整備課調べ (ふん便性大腸菌群数による)
		実 績			水質 A	水質 A	水質 A	-	-	
3 施業放置林解消面積	ha	目 標	434	553	524	568	612	656	700	産業振興課調べ (のべ施業面積)
		実 績			594	618	655	-	-	
4 環境衛生デー、河川美化活動参加人数	人	目 標						4,200	暮らし環境整備課調べ (のべ参加人数)	
		実 績						4,295		4,265
5 上記収集量	Kg	目 標						33,000	暮らし環境整備課調べ (活動時収集量)	
		実 績						22,930		26,580

4-2. <指標から読み取れる成果と課題>

自然環境の保全活動の活動回数は5回で保っていますが、人口減少と高齢化により参加者数が減少しています。参加実績を注視し、行政の関わりを検討する必要があります。
 水浴場の水質検査については、今後においても継続して実施することが重要です。
 施業放置林解消面積は、順調に伸びてはいるものの、全体数が多いことから数値は低い。山林所有者への事業の必要性を啓発し、森林組合と連携して環境保全に努める必要があります。

5. <施策全体の方針>

環境衛生デー・河川美化事業・吉野川マナーアップキャンペーン・クリーンアップならキャンペーンの5つの活動を核としながら、地域での自主的な美化活動を継続的に支援していきます。

6. <施策を構成する事業の成果と課題（全体／主な取り組み）>

No	主な取組内容		自然環境の保全を進めます。	
1	成果	清掃活動への参加数は、前年並みで推移しています。また、ゴミの持ち帰り等のPR効果で、ゴミの回収量が減少傾向になっています。	課題	環境衛生デー等地元住民の方の活動に依存した事業となっていますが、人口減少と高齢化が進む中、行政の関わり方を含め、清掃方法の検討が必要です。
	次年度及び中長期的な今後の方針	平成29年度から一般廃棄物の収集運搬業務を直営化したことに伴い、地域で実施できない放置ゴミの回収やパトロールを実施しています。また、環境衛生デー等への行政の関わりを増やし、地元の負担軽減を図ります。		
No	主な取組内容		自然環境保全に対する意識を醸成します。	
2	成果	吉野川本支流、津風呂ダム等の水質検査については、計画通り実施し、関係住民や団体にデータ提供し、環境保全の啓発を行いました。	課題	吉野川の水質検査等を実施している団体（吉野川を守る会、紀ノ川水質汚濁防止連絡協議会、吉野川を見直す会）のデータを一元化し、効率よく水質監視を行う必要があります。
	次年度及び中長期的な今後の方針	吉野川や津風呂ダム等の環境保全団体と連携し、データの共有を目指します。		
No	主な取組内容		日常生活から環境負荷の軽減を促進します。	
3	成果	住民の方のリサイクルに対する意識向上の結果として、廃食用油回収量は、日平均615ℓと前年度より増加しました。	課題	BDF（バイオディーゼル燃料）をスマイルバス車両以外に使用範囲を拡大する必要があります。
	次年度及び中長期的な今後の方針	公用車へのBDF利用の推進を図ります。		
No	主な取組内容		生活排水対策、公害の未然防止に努めます。	
4	成果	ゴルフ場や産業廃棄物処分場の水質検査を実施し、水質の安全確認を行いました。	課題	検査データの少しの変化も見逃さないよう注意深く監視することが重要です。
	次年度及び中長期的な今後の方針	水質検査を継続して実施します。		
No	主な取組内容		環境美化への意識を高め、不法投棄の防止を促進します。	
5	成果	不法投棄を防止するためのパトロールを実施したことにより、ゴミの増加を防ぐことが出来ました。	課題	ゴミの不法投棄を防止するため、パトロールの強化と看板や監視カメラ等を設置する等予防措置を強化する必要があります。
	次年度及び中長期的な今後の方針	現在、2名の日々雇用職員によりパトロールとゴミ回収を実施していますが、ゴミ収集業務と監視業務の一体的な運用によりゴミの不法投棄の防止に努めます。		
No	主な取組内容			
6	成果		課題	
	次年度及び中長期的な今後の方針			

7. <施策を構成する事業>

金額：単位（千円）

事業 NO.	主な 取組 NO.	事業名 ／担当課等／会計 【転記】	経費区分	事務事業評価【転記】				施策評価							
				H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (現予算)	総合評価	重点化	R2年度方針		短期的		中期的		補足事項 (優先度の考え方、各事務事業の方向性)
				予算	方向性	予算			人件費	予算	人件費				
87	2	公害対策事業 環境対策室 一般	直接事業費	2,992	2,964	3,398	A 業務の内容は適切である	D	成果・費用とも維持 ≡ 現状維持	3,398	→	→	→	→	☆事業No87：公害対策事業 水質検査については、吉野川・津風呂湖をはじめ観光地、開発地周辺等の水質を監視し、その検査情報を住民に提供することで不安感を払拭しており継続実施は必要である。また、他団体との連携により検査項目を調整することでコスト削減につなげる。 ☆事業No88：環境衛生事業 清掃活動については、住環境の保持及び不法投棄のできない環境づくりに地域住民と連携し取り組んでいる。しかし、人口減少と高齢化による地域の負担も増加傾向にあることから各種団体と連携した効率的な活動につなげる。
			関与人件費	1,640	4,825	2,598				2,598					
			うち一般財源	2,371	5,836	2,317				2,317					
88	1	環境衛生事業 環境対策室 一般	直接事業費	9,004	9,191	8,947	A 業務の内容は適切である	B	成果向上・費用維持 ≡ 生産性向上	8,947	→	→	→	→	
			関与人件費	4,451	5,048	4,899				4,899					
			うち一般財源	13,354	14,132	13,741				13,741					
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
			直接事業費												
			関与人件費												
			うち一般財源												
施策コスト 合計			直接事業費①	11,996	12,155	12,345				12,345					
			関与人件費②	6,091	9,873	7,497				7,497					
			総費用③(①+②)	18,087	22,028	19,842				19,842					
			うち一般財源	15,725	19,968	16,058				16,058					
			関与人数(人)	0.77	1.25	0.95				0.95					